

# 中経連



未来につなぐ  
地域の文化

## 安乗埼灯台



千字  
万感

東海国立大学機構長・  
名古屋大学総長  
松尾 清一

特集

がんばるChubu ビジネスづくり編  
＜株式会社加藤数物＞  
金属プレス加工の町工場が  
「両利きの経営」でBtoC事業に挑む

- 創立70周年記念式典
- 第10回定時総会
- 地域会員懇談会
- 「中部先進モビリティ実装プラットフォーム(CAMIP)」設立

## CONTENTS

1 千字万感

### TOKAI-PRACTISS

東海国立大学機構長・名古屋大学総長 松尾 清一

2 創立70周年記念式典

6 第10回定時総会

8 地域会員懇談会

10 「中部先進モビリティ実装プラットフォーム  
(CAMIP)」設立

13 委員会活動

14 中経連ダイジェスト

17 新入会員紹介 中部電力パワーグリッド株式会社

18 Garage Nagoya Topics

20 がんばるChubu ビジネスづくり編

<株式会社加藤数物>

### 金属プレス加工の町工場が 「両利きの経営」でBtoC事業に挑む

24 中部圏の景況感の現状と見通し

26 中部圏主要経済指標



表紙 | 未来につなぐ地域の文化

### 安乗埼灯台 (三重県志摩市、写真提供: 志摩市観光協会)

的矢湾の入口に建つ「安乗埼灯台(あのみさきとうだい)」。波が静かな湾内と荒々しい太平洋の眺めを同時に楽しむことができます。その歴史は古く、今から340年前の1681年、徳川幕府が船の道しるべとして燈明堂を建てたのがはじまりです。1873年には、「灯台の父」と呼ばれるイギリス人技師リチャード・ヘンリー・ブラントンの指導により、同地に全国で20番目の洋式灯台が建てられ、日本初の回転式フレネルレンズが採用されました。その後、海蝕などによる地盤の崩れで2度にわたり岬先端から後退し、1948年、珍しい四角形の灯台として現在の位置に建て替えられました。「日本の灯台50選」にも選ばれる美しい白亜の灯台は、映画「喜びも悲しみも幾歳月」や吉井勇の「志摩月夜」などの小説にも取り上げられ、海とともに生きてきた志摩地域を象徴する建物として親しまれています。また、2013年には国の登録有形文化財にも指定されました。



安乗埼灯台近くの資料館にはブラントン設計の灯台が1/3スケールで再現されています